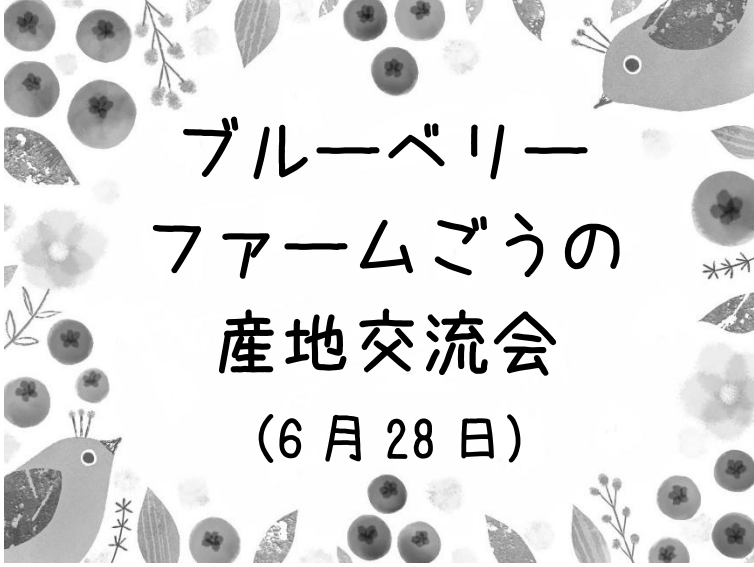


よっ葉だより

2025年
7月28日号
No.846

～地産地消～
いのちと健康暮らしを守る
よっ葉生活協同組合

ブルーベリー ファームごうの 産地交流会 (6月28日)



30年の台木に違う
品種を接ぎ木

くらら8月2週



126 郷野さんのフレッシュブルーベリー
(ラビットアイ)

梅雨の合間、青空で強い日差しの中、小山市にある「ブルーベリーファームごう」で産地交流会を開催しました。ごうのファームは郷野さん一家が家族で経営しています。60名20家族の参加者をむかえ、交流会は裏手にある雑木林の中の広場で行いました。

横山理事長から、今回地元で産地交流会を開いたのは、昨年度初めて行った「アップルファームさみず交流会」で、組合員から「地元の生産者とも交流したい」との声があったことがきっかけとの話がありました。

挨拶の後は交流会です。郷野さんより「ブルーベリーファームごうの」ことや、ブルーベリーを育てている中で感じることについてのお話がありました。

『ブルーベリーファームごうの』は、栽培を始めてから30年経ち、大きく分けて、ハイブッシュ系とラビットアイ系の2つを植えています。ブルーベリーを植えた頃、自然界にはミツバチがたくさんいて、4月から5月中旬、ブルーベリーの花が咲くとたくさん飛んできて受粉していました。最近ではミツバチが少なくなりました。30年の間に周りにたくさんあった雑木林が切られたことで、クヌギやアカシアの花、たくさんの草花がなくなり、そのせいでミツバチが少なくなったと思っています。

そこでなるべく雑木林を減らさないようにし、花の咲く木をたくさん周りに植え、花の咲く植物も圃場の近くにたくさん植えて、ミツバチが住みやすい環境を作っています。人間も動物も助け合い一緒に住みたいと考えているから、農薬を使わず栽培しています。年齢を重ね体が動かなくなっていますが、皆さんにおいしいものを届けたいと思って頑張っています。」と、笑顔でお話を閉じられました。

お話の後は、参加者からの質問タイムです。(たくさんの質問が出ましたので、一部を4ページでご紹介します)

たくさんの質問が出て、郷野さんもニコニコと答えてくださいました。

質問タイムを終えて、圃場へ移動し摘み取り体験です。たくさんの種類のブルーベリーの木の中、郷野さんより「味見をたくさんして、自分の好きな木を見つけてください。」とアドバイスをくださり、組合員の様子を見ながら、郷野さんも一緒に摘み取りをしてくださりました。

圃場のブルーベリーの木の下には、カモミールなどのハーブや雑草、周りには花の咲いた植物、木がたくさん植えられていて、お話の通りミツバチたちがいつも過ごせるような環境になっていました。

途中、30年前に植えたブルーベリーに接ぎ木した木を見せてもらい、しっかりとした幹に元気なハイブッシュ系の木が育っていて感動しました。

大きな実のなる品種、普通サイズ、ピンク色の実のなる品種などたくさんの品種がありましたが、どの実も郷野さん達、生産者の思いが詰まっていて、甘くて甘くて、ちょっと酸味があって本当においしいブルーベリーでした。

「人間も動物も助け合い一緒に住みたい」とお話しくださった郷野さんのブルーベリー、生産者交流会でその人柄に触れ、より一層ファンになりました。

「くらら」では、郷野さんのフレッシュブルーベリーを8月末まで楽しむことができます。いろんな品種が届きますが、(ピンク色の品種は圃場でのみ食べられます。)それも楽しみに届くのをお待ちいただければと思います。

生産者の人柄や思いに触れられる農業体験や産地交流会、今後も企画して参ります。皆様のご参加をお待ちしております。

理事 小田切

山形県鶴岡市・庄内協同ファームへ訪問 (5月22日・23日)

覚えていませんか？ 2024年7月25日にかけて山形県に線状降水帯が発生。川は氾濫し、住宅街や田畑に土砂が流れ込みました。庄内協同の生産者も住宅には被害はありませんでしたが、多くの圃場は冠水し作物の収穫量は減少となりました。その影響は今年にも。

① だだちゃ豆について

山形県・鶴岡市の特産品であるだだちゃ豆。庄内協同ファームでも毎年栽培し、よつ葉生協でも力を入れている野菜の1つです。毎年種を自家採種し、次年度の為に採っておきます。

今年の種は、昨年大雨により種の品質が低下。まず、数が無い。だだちゃ豆には早生品種から晩成品種まで何種類か登録された茶豆があります。その中でも自家採種を続けている在来種が壊滅的。農協で購入できる品種も量が無いそうです。そのような中でも、生産者の方々は豊作の年に採取した種を冷凍保存しておき、今年のようなときに使って栽培してくれています。苗の定植時期に曇天が続き、生育はいくらか遅れているとのことでしたが、面積の大きい圃場に並んだだだちゃ豆の幼苗は美しく、圧巻。夏の暑い中収穫は大変と思いますが、楽しみでなりません。だだちゃ豆の部会長、佐藤さんと一緒に「お天道さん次第だからお祈りしましょう」と言い合ひまして、毎日天気予報とにらめっこし、私も雨乞いをする毎日です。

② 米菓「玄米おこし」について (8月2週くらら 21 ページでも詳しく紹介しています)

生産者の皆川さんご夫婦。今回初めての訪問となります。なんと、作業工程を見せていただけるとの事！！全員で作業着に着替え作業室に。作業は全てご夫婦二人だけで行い、物の配置から手順まで無駄がなく、なんと手際が良いことか。

あっというまに『玄米おこし』が作られていきます。工場製造のイメージが強い菓子ですが、ここでは製造から袋詰めまですべて手作り。一度に製造できる『玄米おこし』は5袋分。同じ工程を何回も行い、一度の注文分を作っていきます。

『おこし』を作り始めたきっかけは、栽培した米の販路拡大と、冬の仕事のため。まだ冬は出稼ぎに行くことが多い地域の中で、自宅でもできて、米も活用できるお菓子を作ろうとスタートしました。はじめはポン菓子でしたが、ぼろぼろしないように黒糖で固めてできたのが『おこし』。白米で製造した方が、糖が絡まりやすく簡単ですが、皆川さんは、栄養価が高く、香ばしさがでる『玄米おこし』がお気に入り。

笑顔が素敵な皆川さんご夫婦が作る『玄米おこし』。ぜひお試しください。

③ 米について

2024年度産の米不足は庄内でも同様。よつ葉生協用に確保していただいていた米は、あっというまに終売となりました。今年の圃場見学では、庄内協同ファーム理事長である小野寺さんの案内で、庄内の中の押切地区へ連れて行っていただきました。

ここは、有機栽培や、アイガモ農法が盛んな地区。また、地域内の農薬に対する理解度が違う！ヘリ防除部隊は、有機農業に農薬の制限があることを理解しているため、迂回するなり、農薬のドリフト(風で農薬が他の圃場にかかってしまうこと)にも気を使ってくれるとの事。地域によっては特別栽培の圃場にも空中散布されてしまうこともあったようです。

同様に、昨年まで農薬不使用で栽培していただいていたササニシキも地域の方々から農薬散布を懇願され、今期は特別栽培となります。気候も昔と比べ上昇していることで、病虫害の発生率は増え、農薬に頼らないと難しくなっていることは事実。生産者・消費者だけではなく、地域の理解があってこそできる有機農業だと考えさせられた庄内訪問となりました。

その他にも麦茶の『むぎちゃん』の原料となる大麦の圃場を回っていただき、もう少しで黄金色になるところを見てきました。通常の麦茶と比べ、香りや甘みが抜群に感じられる麦茶。暑い時はもちろん、冬は急須に入れてホットで飲むこともおすすめです。

気候変動に伴う栽培の難しさや、人手不足はどの地域でも同じ。庄内協同ファームは米の栽培に除草対策としてアイガモや、紙マルチを使用されている方もいますし、他にも、アイガモロボットでの除草や、ドローンによる追肥散布も行っています。生産者は情報を駆使し、新しい技術や工夫を重ね、私たちに商品を届けてくれています。毎日の食卓に感謝をしていただいいきましょう。(商品部 間中)



「えだまめ部会 部会長 佐藤さん」



「玄米おこし生産者 皆川さん」



- 2 玄米おこし
今回は少量サイズでご案内！
- 3 揚げ潮あられ



「庄内協同ファーム理事長 小野寺さん」

8月2週 480 むぎちゃん(麦茶)麦の豊かな香りを楽しめる逸品です！

参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

宇都宮

マクロビオティック料理教室

よつ葉の食材を使って、動物性食品を使わない料理を作ります。

講師は宇都宮南委員でもある永井恵美さんです。

この季節の食べ方についてもお話する予定です。

日時：8月21日(木) 10:00~13:30 (受付9:45~)

会場：雀宮地区市民センター・調理室 (栃木県宇都宮市新富町9-4)

参加費：組合員 大人 1400円 子ども(小・中学生) 700円

一般 大人 1500円 子ども(小・中学生) 800円

定員：12名

託児：なし

締切日：8月8日(金)

主催：宇都宮南委員会



季節のフルーツシロップ作り

那須塩原委員会

6月20日 稲村公民館

季節のフルーツシロップ作りに参加しました。

今回の材料はブルーベリーと河内晩柑、砂糖を使用しました。

果物を適当な大きさに切り、果物、砂糖、果物、砂糖と瓶に入れていけばいいだけだったので、とてもシンプルで簡単に作れました。

完成までは数週間後なので、試飲する日を楽しみにしています。

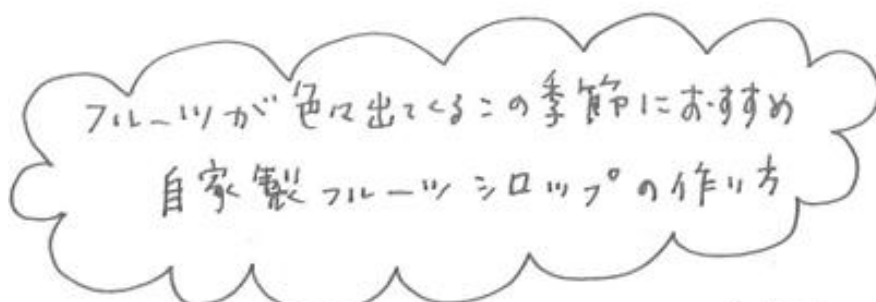
今回の参加者の方々は市販のスポーツドリンクやジュースなど気になる方が多く、

その場で簡単、家製スポーツドリンクの作り方も教えてもらえて、さらに試飲もできるという、まさに安心して安全で美味しいと皆さん大変喜んでおりました。

自家製スポーツドリンクの作り方は水、自然塩、レモン果汁、はちみつを使用しました。

とても美味しかったです。

(那須塩原委員会 磯)



水や炭酸水割って飲んでもOK!!

- ① 洗った果物をカットする (ex) ブルーベリーやいちじくはそのまま 柑橘は皮をむきむしり or 薄切り)
- ② ①の重さを計りその1.1倍の砂糖を用意する
- ③ 清潔なガラス瓶や深めの木口ロウ容器などに 果物・砂糖・果物・砂糖 と入れていく
- ④ 1日1~2回混ぜて常温に置き、砂糖が溶けたら完成 → 冷蔵庫保管がオススメ (すぐに使い切り量なら 常温保管もOKですが、長く常温に置くとピロロ菌が繁殖する可能性があります)



よつ葉文庫 新刊登録

NO. 1339 がんにならない食育大全 子どもの未来は食事で決まる

佐藤典彦 (帝京大学福岡医療技術学部教授、医師)、食べもの通信社



子どもたちはがんの予備軍です、と言われると、「えっ?そんなに早くから」と思ってしまいます。30年間外科医をやってきた佐藤医師が多くのがん患者を診て、高齢者と若い人に二極化してきて高齢者が増えるのは当然だが、20代30代の患者の増加の理由が分からずにいたといいます。

一人の30代の患者の男性を診て、子どもの時からの食生活を聞いて、若い世代にがんが増えていることを多くの研究論文を精査し、原因を徹底的に調べました。その結果、子どもの頃からの食事や食生活ががんを促進する因子であることを知りました。

子どもをがんにしないための食育を広める重要性をひしひしと感じ、本音を書いたといいます。

よつ葉生協がすすめています和食と手作りが、役に立ってほしいと願っております。

(顧問 富居)

科学的データが教える 将来のがんを防ぐ新常識

思春期までの食事でがんのリスクが決まる

やっぱり無さそう

毎日飲んではいけない果汁100%

食べものの食べ過ぎはなぜ危険

YouTube がん情報チャンネル 登録者 20万人

食べもの通信社

ブルーベリー産地交流会 質問タイム♪

質問タイムでは、郷野さんから家庭での栽培のアドバイスもありました。

Q. 虫対策はどうしていますか？

A. 農薬を使わないので、人海作戦です。みんなで見てまわって、虫食いの枝は切って退治しています。

Q. 30年前の木は元気ですか？

A. 30年前の木は、全部、接木の土台にしました。途中の圃場に植わっているので見られますよ。

Q. 土作りはどんなことをしていますか？

A. ブルーベリーはピートモスだけで大丈夫です。植え付ける時に穴を掘って大量のピートモスを入れてあります。土の酸度も何年かに1回計っています。酸度にはハイブッシュ系は敏感、ラビットアイ系は強いです。まず最初に植えるなら、ラビットアイを育ててみてください。

Q. 甘いブルーベリーの見分け方は？

A. (実際に)食べてみる。それが一番です。

Q. どうしてブルーベリーを選んだのですか？

A. 両親が農家をしていたが、年齢を重ねて父親が57歳の時畑ができなくなって、土地が空いてきた。その時、女性でもできる農業ないかなあと思っていた。ちょうど新聞か雑誌で二宮町の方がブルーベリーを作っているという記事を読んで、やってみようと思いました。

Q. ブルーベリーの肥料はどうしていますか？

A. 化成肥料は使わない。ブルーベリーは根っこが細かく繊細なので、化成の強い肥料は根っこが枯れてしまう。肥料は油かすを撒きます。木の周りに大きく円を掘ってそこに埋めます。

家族連れが多く、子供達も一緒でしたが、みなさん、真剣に郷野さんのお話を聞いていました。生産者に直接お話を聞ける貴重な機会を設けることができ、良かったです。生産者も参加者も笑顔のある素敵な交流会になりました。忙しい中、参加者のみなさん、郷野さんありがとうございました。

参加された方から郷野さんへのメッセージ&感想をご紹介します

<郷野さんへ>

☆おいしいブルーベリー、おうちで食べるのが楽しみです。

☆ありがとうございました。

これからもよつ葉生協でいただきたいです。お体に気を付けて、がんばってください。

☆農薬を使わないのはとても大変だと思います。

ありがとうございます。

いちご狩りなども、農薬が使われていると思うとなかなか行けません。子供にも今回は安心して参加できました。子供にも、ブルーベリーがどのようになっているか見せる機会になってよかったです。

(T・Oさん)

☆ごうのさんのお話で、ブルーベリーの品種や時期も知れたし、ごうのさんがどう生きてきたかも興味深く聞くことができました。ありがとうございました！！

(葛谷さん)

☆10年前よつ葉さんで買ってこちらを知り毎年来ています。

ごうのさんのブルーベリーは他園と全く違います。今日お話をうかがってご苦労を知りました。これからもお元気でがんばって下さい。

(M・Tさん)

<ご感想>

☆うれしかったです。ブルーベリーつむのがたのしかった。

日陰で風がふいてきて、気持ちがよかったです。(4才女子)

(N・Gさん)

☆とても楽しく参加させていただきました。

お話を聞いたり、いつもいただいているブルーベリーがどんな風になっているのか(育てられているのか)を見たりできてよかったです。(収穫も大変だと思いました。それが届くことがありがたいです。)

(K・Wさん)

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告 (7月3週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	4,400
震災孤児を支援する募金 (910番)	14,800
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	7,700
合計	26,900

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。



ホームページ



Facebook



Instagram